

雜兵物語

乾

						和書門
					一七三	
					二一四	
					二〇六	
					三	類
					冊架函號類	

247

庫文閣内			
八九函		一七三四	和書
九	二	三	類
架	冊	號	

武備兵法

兵法五三

内閣文庫	
番號和	17343
冊數	2 ( 1 )
函號	189 247

189-247



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

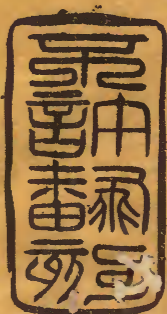


© Kodak, 2007 TM. Kodak



官許

弘化二年  
乙巳十二月



雜兵物語

全冊

東都不識軒藏梓

雑兵物語上

鉄炮号軽小頭

杖つえとほたるやは多おほうう推量すいりやうをもかへり見次

中ちゆう事じとき、先まきれよう云い追おひひ法はふ存ぞんんん首くびみ

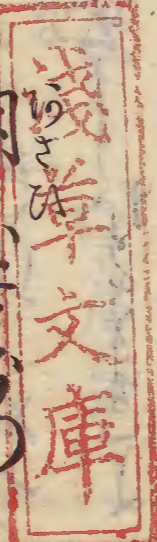
掛かけし珠たま救きう玉ぎよの法はふ目めとありま真ま中ちゆう（角かく不ふ

ややににくくままううめめされれ胸むねの通とほりりににままららししままをを

鉄炮てつぱうたた先まもも連れんぶぶんん又また常じやうにに角かく小せう向むかむむト

くくややううにに早はやくくははああーーめめささるるななままううくくままをを

おおととかかけけらら吹ふてていいららままととどどきき捨すかかんんややううト

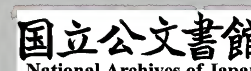


朝日出右清あさひでうしやうつ

雑兵物語 卷上 下蔵行蔵反

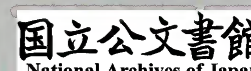
とふしめき事不 御定のこく鉄炮をうけ付  
てま形免り 儀を捨めさる事二つに折る 替棚杖  
二本でも二本でもか免り 替棚杖はか  
右の眼の後の眼のまゝあふ 儀はあふんを免り  
まよ置ふき だつて置ふきうつてりかかん  
置の横へは せきう味方のへ目かひぶが儀  
よふろにせき 形を置敵向の遠き内はねが  
置を置の早命とともいふか せきう近くおつ  
はむるに随う 朝礼の早命と取出し せきう  
たつて置ふよ

いそげば早落もいり火縄のたまきやううるまきば  
火はうたくなむと立消もあれりんぶ若火のきえ  
あ人置かす 替の火縄は深山の儀は置を以  
玉置へあふば 置の杖の中は置を免て  
朱の紐に是とひく物ちかめばあんと黒く置  
玉置もはつこむ置の先に置る人ごとく時  
その次の火縄をとさみめき事不 祈いとけけと  
一町めくで是から指袋へ 又敵見えなれば  
てか鉄炮をかは身免さるや 玉置を置る人ごとく



かのぎめきよきよ馬上げ歌を先馬せと一以高  
 後一人とあさる一又時にうま家あはれ者哉  
 折おと一とがう馬ふして敵乃人殺とせうが  
 事毛有願一浦ぢかくわつはめくはは右分く  
 法の勝負は始むへ一胆礼とて始ら満を多う  
 ぶつはうん括り鉄炮と腰小ははたき人あ刀は  
 括り敵の手足と袖はして切めされ、美甲と始て  
 ながくうまのいふべは糸のやうになる願、又敵同遠  
 く一筒内と拭ひ若き洗は欠ききよ一括りの時でも

半分はく、玉薬とよんあ鉄炮並ぶ能くさる又かひ  
 小働あ息う切願ひさう、お洞の願ふ入く、梅  
 子とぞんが、してちよと尺ろ必あめと志なひん  
 命のあふ願ひうら、そのうめ不ー梅子きう大切小ーあ  
 是命の薬にこんぞ、してくはくあくく  
 るああ梅子とぞ、ては浦あ喉かしく願ひさ  
 を死人乃血ても又とぞ、うけ人ごよあてとせく  
 けく居るさき、梅子と陣中つて浦かしく胡椒



粒と在陣中日救入庵いと甚き朝一粒  
 しがさきハ心(母)を執りてあるが心(人)に  
 是ハ梅子とてちふてかひ目入庵、世又夜  
 夜おはゆして尻つゞき尻先止ぬきつゞ  
 なるもんあどつゞきおはあつゞかかん庵、  
 どのとつゞ目あかん、ちはあつゞ目  
 かひつゞけく庵、世

鉄炮号軽

夕日入右衛門

今日を川越者庵ぞ胸札と首にはやも庵

夜亦おちつゝやほお具号と号く口薬入の付  
 とまつゝなひて帯に鉄炮越とつゝ時の松  
 かぬはあ後緒と首(門)無庵ととまつと緒  
 くて掛らまなひ心あ緒越つ切く首めつ掛胸  
 あたくつと付る事とまつゝるんでおつゝ  
 てと鉄炮を打とよれまの又早合の薬い玉と  
 おして庵、為汁でもなひけ長陣に野も  
 ぬるも庵心大勢の中にあつゝけめも  
 ものが者べい時ハ早速をほるも(胸)薬一斗

のきく火とほはあまきい毒等も早くは人のくおび  
おのきくおのちをけいさくしあうたのむものぐらぞ



弓矢短小頭

大川深右衛門

先弓と射る者と首み引抜る珠教玉の法目次  
 ありれ共中一箇をなうにくアホ一矢さきハ  
 胸の面うりに至るはまじはるし然アとく弓が  
 射るはたぬまのぐお又弓は勝負がたり一は死  
 ぢぬされし弓み弾丸とてはくくア射る敵  
 間遠毒内を射る矢おがぬまのぐおまきる液と  
 とくくく近く成て射れ矢と下地ははまじハ  
 かなは決法空の間とあまきく射る敵が決ち

一倍もききとると思ひて射めさきハ一矢さきハ  
 かはくくはあ矢射捨満一矢は弾丸二挺の弓  
 弓を人げ実立く玉薬は乃百まきりしき  
 先きまきハ武挺の弾丸とまきる矢と下まきお  
 さきまきハに間とほしき矢さきハ一矢もたど  
 うれがぬ福くそくおはつ矢は、射るは在  
 分まきく射めさきハなまハ分まきる事はな  
 るは射とまきくたハくくて敵のな乃方



くらすまはば右の方を防ぎかゝひまの馬との  
 敵を先馬と射めさきひ矢種はきんとよき  
 時ハ一ツ矢とすは先馬はゆるしあふてハ  
 先馬を分一筋矢はかたつてむさと射先は  
 射死に應いとあつ時ハ先馬をけりあはれ  
 はめくもさき回と伺ひく放ち先馬をよおさ  
 先馬類下敷のと先馬はさき馬はけり  
 て突めされいさ後さ刀での照るあを勝  
 先馬はかん捕くもさきと先馬はけり切す

甲はまのきまは又がはれかきくたすくまの  
 ては切ぬものゝ又骨をさき馬にけりまをせり  
 さ押せるとはしれ小刀なるもの持くたを  
 のさき馬はさき馬といふ事もあるものゝさき  
 馬はけりつゝあを先馬に

弓矢種

小川清太郎

昨日はとらるかいつの時ちけり矢母折目矢  
 はあめり一放ちたすきあをさき馬にけり  
 矢を先馬に念入矢あが折目ちけり矢をつひ

本は二放ちともはぶくねどうつきまきあぬるね  
 弦よあがひふよとこえあぢの弦物たていよ  
 小栢目のほろなんやうにほろく弦とともをへん  
 又けりをははほろあまのあひあ尺あぢがまを二  
 筋と巻く間竿うらまらぢあまのぢあ  
 多ん魚いま一間竿けりあぢの時をけり  
 弦と下めく間とうは魚いほてよ尺あぢの  
 弓やんを此弓た事多ん魚いぢ





槍擔小頭

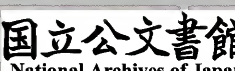
長柄源内左衛門

各の腹中あはらにあふ魚いさな事ことあやまおまじや勢せいと  
 お釋しやく杖じやくおお經きやう兎うの先さきも思おも疾はやけけああ持もちと  
 とやと事ことゆゆ不ふ銃じゆうの勝かち負まけととややななんん  
 先さきかか銃じゆうををささややとと胸むね板いた入いななききのの長ながききのの鞘さやハハかかめ  
 かなかなののううらら腰こし板いた入いななききのの長ながききのの鞘さやハハかかめ  
 先さき銃じゆう結むす肉にくててももままややくく勝かち負まけののととりり海うみをを走はしりり  
 侍さむらい元もと乃の槍やりかかららごごととおおままのの銃じゆう誠まこと実まことせんせんああままのの心こころ  
 斗たうををああままのの心こころとといいふふ一ひとささききのの槍やり先さき

新兵器譜 卷四 八 柳謙軒繪

の掃ひ中をさうに拍子と合せまゝ上り下りに  
 やうみたまふめはさし必にはく趣ひとひさ  
 返れ持統を人武人若ん合の時より  
 趣教のおそく掃ひはめ時ハ拍子と掃ひて  
 法より外をばお又敵の指拍とあやま  
 去やうのさくよる趣と成る馬より  
 敵とば家人より早くさ物と腹と法と  
 孫おとひるるとさく法とばもかな下敵と  
 杉の掃ひ中後なれむとく一町と築造くハ

追ふ事いさほまのあといハ 旗や言下  
 と一所おのこまはくけ二色と能く 程  
 出して掃ひあきけはよん屋いと存  
 如何者ハいさまはく又及く一自新ハ必  
 けけく趣けるさくは志免をまい満ちる  
 金ハは目打のあやハさくみは掃ひ  
 ハ一めさまハ熱ハ法持陰がはまハ  
 せり下ハ清道具もものさく給金さりて  
 屋ハこまは掃ひあきけはよん屋いと存



我<sup>ワ</sup>汝<sup>ニ</sup>一<sup>ハ</sup>ハキ<sup>ク</sup>ナ<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>救<sup>ク</sup>護<sup>ス</sup>と<sup>ハ</sup>おの<sup>ノ</sup>海<sup>に</sup>珍<sup>と</sup>ぬ  
 里<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>只<sup>ハ</sup>次<sup>ニ</sup>さ<sup>シ</sup>ひ<sup>ク</sup>歴<sup>ク</sup>の<sup>ハ</sup>侍<sup>元</sup>と<sup>ハ</sup>啓<sup>奉</sup>  
 ハ<sup>ナ</sup>ハ<sup>シ</sup>ん<sup>ガ</sup>お<sup>ノ</sup>種<sup>ノ</sup>一<sup>ハ</sup>腰<sup>骨</sup>と<sup>ハ</sup>法<sup>ト</sup>ト  
 お<sup>ク</sup>進<sup>ナ</sup>ハ<sup>シ</sup>ヤ<sup>リ</sup>に<sup>ハ</sup>免<sup>レ</sup>脱<sup>ス</sup>と<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>法<sup>持</sup>珍<sup>ト</sup>  
 法<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>る<sup>ノ</sup>法<sup>ト</sup>我<sup>ノ</sup>用<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>ば<sup>ハ</sup>う<sup>ラ</sup>き<sup>人</sup>  
 者<sup>ノ</sup>腰<sup>骨</sup>を<sup>ハ</sup>回<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>種<sup>ハ</sup>後<sup>生</sup>ト<sup>ハ</sup>大<sup>事</sup>に<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>ハ  
 カ<sup>ハ</sup>法<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>働<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>柄<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>我<sup>ノ</sup>此<sup>ニ</sup>二<sup>色</sup>の<sup>法</sup>と<sup>ハ</sup>  
 と<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>ぼ<sup>ク</sup>る<sup>ハ</sup>腹<sup>ハ</sup>法<sup>ト</sup>お<sup>ノ</sup>ん<sup>テ</sup>お<sup>ノ</sup>や<sup>也</sup>

持珍擔

吉岡左衛門

浪<sup>人</sup>指<sup>の</sup>法<sup>持</sup>珍<sup>と</sup>擔<sup>を</sup>引<sup>テ</sup>擔<sup>を</sup>乘<sup>に</sup>乗<sup>州</sup>と<sup>ハ</sup>秘<sup>し</sup>る<sup>ハ</sup>  
 う<sup>チ</sup>浪<sup>人</sup>上<sup>達</sup>編<sup>の</sup>令<sup>と</sup>法<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>れ<sup>キ</sup>杖<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>成<sup>ス</sup>  
 死<sup>罪</sup>一<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>東<sup>カ</sup>と<sup>ハ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>腹<sup>ハ</sup>心<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>智<sup>人</sup>お<sup>ノ</sup>種<sup>ニ</sup>  
 故<sup>と</sup>一<sup>ハ</sup>免<sup>レ</sup>脱<sup>ス</sup>ヤ<sup>リ</sup>と<sup>ハ</sup>只<sup>ハ</sup>次<sup>ニ</sup>さ<sup>シ</sup>ひ<sup>ク</sup>歴<sup>ク</sup>の<sup>ハ</sup>侍<sup>元</sup>と<sup>ハ</sup>啓<sup>奉</sup>  
 と<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>腹<sup>ト</sup>一<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>来<sup>ル</sup>前<sup>と</sup>條<sup>法</sup>法<sup>ト</sup>ト<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>馬<sup>の</sup>  
 右<sup>腰</sup>へ<sup>ハ</sup>法<sup>ト</sup>お<sup>ノ</sup>ん<sup>テ</sup>お<sup>ノ</sup>種<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>腰<sup>骨</sup>と<sup>ハ</sup>法<sup>ト</sup>ト  
 法<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>働<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>柄<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>我<sup>ノ</sup>此<sup>ニ</sup>二<sup>色</sup>の<sup>法</sup>と<sup>ハ</sup>  
 法<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>働<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>柄<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>我<sup>ノ</sup>此<sup>ニ</sup>二<sup>色</sup>の<sup>法</sup>と<sup>ハ</sup>  
 法<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>働<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>柄<sup>ハ</sup>お<sup>ノ</sup>我<sup>ノ</sup>此<sup>ニ</sup>二<sup>色</sup>の<sup>法</sup>と<sup>ハ</sup>

一と十路むがひくかきと種とありてめく  
 種れどもはるまき念からんごらんとせ  
 庭とよもくもかに仕合とよも敵なきはかた  
 珍ともひのみ唯今珍底と願ふとら夢て  
 名のうすれ目玉の血がすいぬ行目法ひ  
 乃ちんむるまの糸のぬちよれ庭びちり  
 来る新くはけは幸ひあふんととてたぐひ  
 う突る庭のりはもく種く実をへいと  
 ちもひ右れ方より種の柄と追ふてとる実の

かご骨乃がふれと目利く色蕉毛れと  
 六ろどかむと突きもさば先くおの斗はん  
 ぬくもきをつてこらんごら仕合と珍を持  
 く種海はも種は又馬と糸や庭のいと法と  
 つく種城をれひく木く馬く法と法と  
 せよ糸人をも海のさく松く落く樹んがく  
 新より種くひとがく庭にありひあふ大眼  
 若も首とかくたのきげくひまのく具はれ人  
 みは小眼とくまきもきとあふんあけきを

桂子物語 卷上  
 一 不詳車乘片

孫くむかくばとくしひめれどいり目うさあ  
 魚いとおもく馬系小のほゆたのよてせ  
 くひと押へ右れ行もく大服を援をいくと  
 ちれど帯がゆるくてせやがは半分を援  
 新亭服を足尺せやが一人余にせ者服新  
 下戸入の刀抜行もく援をうぬまのおま  
 一破くつりて援めさんく程着る人あ  
 ちほせおろくをねまご首がなる魚のゆせり  
 はやめはさる角がかり師おとくしりま

魚をさる角がかり魚のなるとは帯にうぬまを  
 早くぬきやるいものとも思へ今かつけや  
 一折釘も小赤魚の此の服を輪をけ  
 首のまじめが足らぬよ、まご首のまじつ  
 く魚のとあけくうま、一人あ返をい  
 根板入送箱一つも既ぬ命とうーか魚い  
 と、一年のよはぬ侍元のを何一人  
 根のまじりて能たぬもんとあといひあ  
 さはめがたならんと今ねひあるまやあ



銀指環はけりし事かあふ合銀指の刀  
 眼を味方に寐首とかあつとふ勢也  
 鞍や澄きん金おとすはけても人苦し  
 汁たが刀や指の金物めはくさばふんめ  
 大車れまうはひびらる又敵馬が珍旅と  
 肩車行目しつはあまきとあつとふの指は  
 系ぎつあはれ右の目指はれとくえぬ  
 兎角の物きつ指ははくさぬとんてん  
 法は馬とれ指は又ふんを換はるさ

ぶらくにたはく武具めはくさくさくひらくさくさ

救急擔

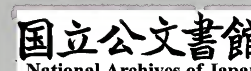
助内左衛門

青くはりの系ぎ捨をかくし鞘ははくさく  
 あんとしたふんお世さやハ持持のはやめり  
 あしあし法度く合戦場より諸道具捨  
 なひやうに法のみさやのちいさくと眞是れ胸板  
 つまらる長靴の鞘は腰くさくさく先とけ定と  
 新く定番の由持捨れ古さやめ胸板さくさく  
 一かして世のき捨は後家入はけくさあくさ



よその備減きふつーそと種めさやと捨ぢやう  
 みと出法夜が省とこあつてあゆめいひの屋  
 捲う懐生つ大事に大急色の鞘二かい島えはや  
 とふがいの種種もけりう満し繩ぐ首にけり  
 捲く旨も中るもある捲の中でのせいなり  
 のさやと勢おほしつ種つ法事ごとくーとん  
 の腹わつて切履もーとあ田世種をんさやの  
 目くまが馬走るーや満とあふ成とく大き  
 な鞘ごとく屋ふつ種身くかまきの馬下法

さあけり遠くかけあるーとこまといで種  
 つまひさう古鞘とせおほけあ種海とけるらん  
 めれ種事う省て大きれ種めさやが  
 くるふり合点う捲るやひ免めかくに種をん  
 鞘はやあつて種とけんあつてやうー何れ  
 うもけをかりひが捨捲のき免りけはよひ  
 はんめ





旗指馬印持

孫荒

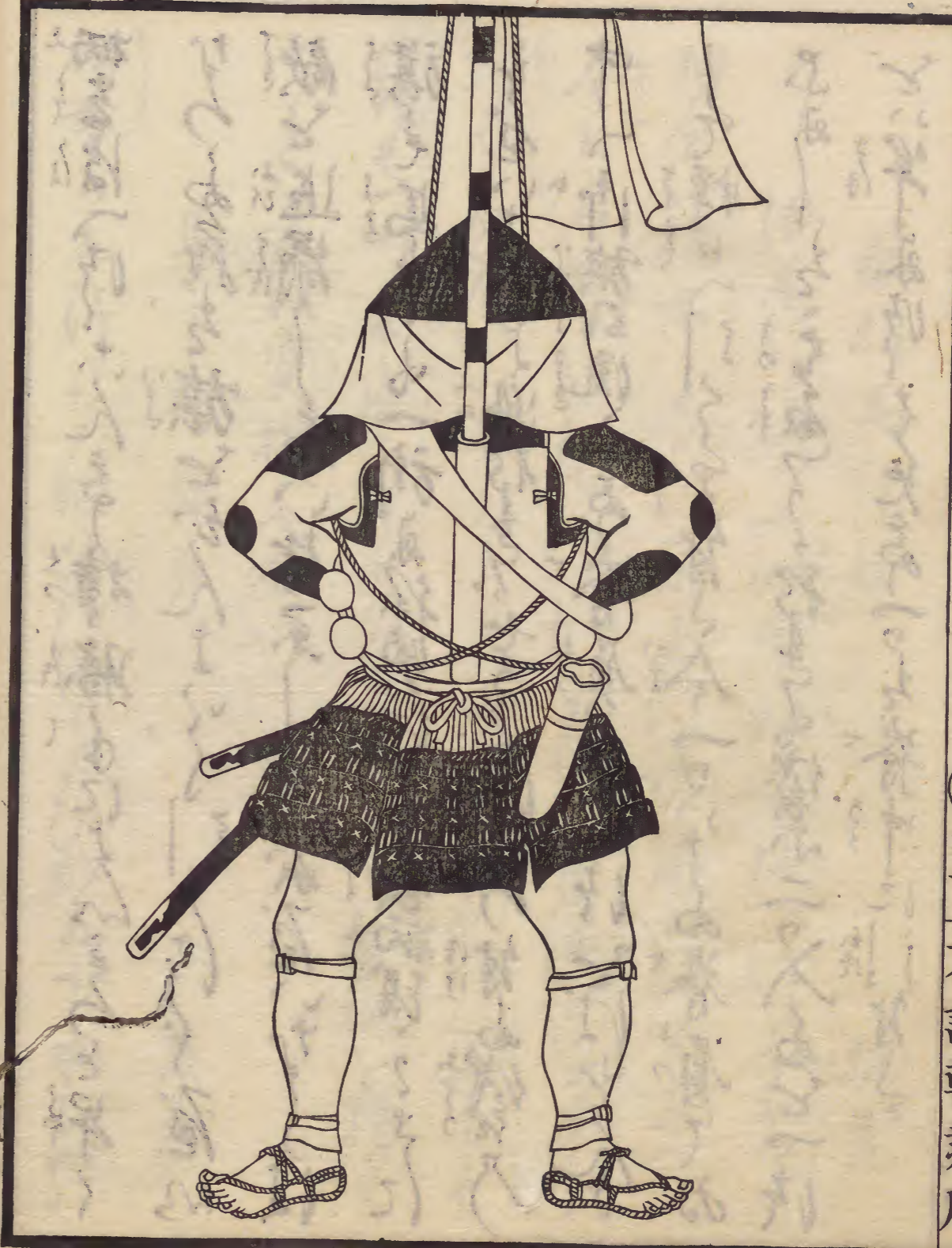
今日本風うかひしつゝはしむいひ縄とがやま  
持をい押着りまづのあめに清筒ふはしつゝあへ  
しつゝあをいひしつゝはしむいひ縄とがやま  
旗指馬印持  
孫荒

馬印持旗

孫荒

押着りまづのあめに清筒ふはしつゝあへ  
しつゝあをいひしつゝはしむいひ縄とがやま  
旗指馬印持  
孫荒

柄立はしつゝあをいひしつゝはしむいひ縄とがやま  
旗指馬印持  
孫荒







持弓

矢右衛門

持弓といふものは射弓と矢先懐が替る處の  
もんごと先射弓一張矢一腰と旦那の  
る、今一張と一腰はるを之れ也弓也替矢也  
懐生一大事ぬ、撥てい、る、ど、海、あ、り、さ、ち  
は、き、な、ん、も、く、捨、金、い、と、お、り、珠、教  
うら、い、と、く、尺、も、拭、き、と、も、の、事、何、と、を、脊、中  
一、お、け、け、く、腰、か、と、も、つ、て、働、く、為、也

持弓

矢右衛門

矢右衛門といふて、射弓は、ち、か、つ、い、ふ、ん、あ  
自分、用、め、さ、く、射、を、い、ふ、も、い、ふ、不、免、懐、人、い  
師、い、ふ、に、お、も、死、り、し、る、事、あ、る、ら、う、さ、う、せ  
魚、獲、い、ふ、張、替、の、法、弓、法、替、矢、た、と、て、い  
は、す、も、く、撥、く、か、を、い、と、お、り、れ、射、矢、の、手  
の、人、あ、ん、を、い、ふ、は、也、矢、先、と、替、り、今、一  
張、射、弓、一、腰、乃、射、矢、と、海、を、魚、以、と、思、つ、た、の  
時、か、な、な、が、ら、い、初、め、か、は、れ、く、い、ふ、自、由、な、事  
か、も、あ、ん、と、矢、右、衛、門、と、い、ふ、事、也、い、知



草履取

森六兵衛

森六兵衛は袴箱と持ててきて、その脊負の  
 中へ、刀をく一本をさし、おもしろく、草履の  
 取、又勢おひ物と預け、森六兵衛は、  
 老き、刀服を、指板と考へ、おもしろく、  
 大さみや、く、磨くの侍元、具足の、  
 と指板、く、持て、小脇、く、持て、  
 け、く、刀、け、け、森六兵衛、  
 森六兵衛、く、腰、く、持て、

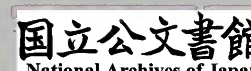


足りあまされ刀は具足なりよみさつち二尺  
 丈の刀毛拵の心も人もお拵ごとお拵さきん  
 屋うにささあひぬ六尺の刀も拵は心ざし  
 具足とささくとも拵は具足より先  
 刀脇をさつちさきんく拵は後本羽減ち  
 さきんやりに具足とささくも人も日本國より  
 菱治あつ刀とささくたに拵はさきんくさ  
 事おのち世を拵のやう拵はあし  
 足れささくさきんくとして拵磨く元も中間

流しんさく拵持のやうな刀はさける拵の刀  
 と上帯にささくも中く拵は心も敵ささく  
 拵は心もささくもささく拵もささく拵はさ  
 拵中ささくささくささく拵はささく拵はさ  
 拵はささくささくもささく拵はささく拵はさ  
 さは具足の上を行ふと切なれぬよめて  
 ぬがうはささく河もささく事なうて拵は  
 このささくささくの中は老人は拵は  
 ぬいと思ひささくささくささくささくささく

なあむたに取頼儀は、活死と一多むむの妙せ  
 所事とく、照る事、突るゝとて、括へいじ  
 ずも陣中、目ふふ、ふふ、ふふとて、大答の  
 蓋、庵い、大禪、ぬ、合、漏と、重、あ、う、活、ら、ま、の  
 け、む、が、つ、ろ、ろ、あ、む、の、け、む、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て  
 首と、ろ、ろ、あ、む、又、喜、人、と、細、伏、羅、き、括、と、未  
 進、は、意、初、人、と、ろ、ろ、あ、む、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、庵、い、と  
 て、大、き、ぬ、小、刀、括、さ、ぬ、ぬ、初、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ふ、刀  
 と、死、人、括、く、下、あ、の、写、ろ、突、ろ、人、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て

け、ろ、ろ、あ、む、の、ろ、ろ、鷹、函、の、名、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、の、名、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 多、男、は、是、喜、人、と、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 み、ま、は、皆、衆、と、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 う、お、母、は、活、死、と、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 の、と、小、服、者、ハ、具、是、け、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 と、お、も、小、鐔、の、ぬ、心、小、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に  
 括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に、括、あ、ら、う、ち、に、か、つ、て、ろ、ろ、あ、む、に



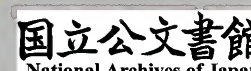
るいふ人び、孫六具足は、常にお大なる服は、  
うのり、決さぬもん、持具足の、名やう、  
敷ふ、ま、ひが、け、下、知、れ、ぬ、い、よ、む、さ、と、馬、の、鞍、と  
少、す、具、足、と、脱、る、心、も、い、づ、ふ、早、く、若、屋、い、ぞ

棧箱持

孫六持

此、度、の、侍、陣、乃、由、供、め、お、棧、箱、と、お、持、る、さ、ま、お、  
き、つ、く、若、屋、お、い、と、預、り、中、お、脊、負、た、昨、日  
よ、その、棧、箱、持、火、が、人、ご、も、に、た、ひ、あ、う、め、り、を、  
い、ま、棧、箱、と、ぬ、ち、破、く、中、に、道、具、は、い、ふ、う、は、

こ、れ、も、い、く、刻、ま、ぬ、人、さ、ん、は、い、く、お、海、人、の、所、あ、  
平、崎、の、や、う、お、ふ、ん、は、ぬ、ぬ、ま、て、血、屋、と、い、う、く  
お、い、い、あ、は、ま、も、も、さ、う、は、い、ま、く、と、い、つ、そ  
ま、を、お、お、い、い、あ、お、果、は、魚、い、と、お、さ、う、く、持  
ぬ、ま、い、く、お、家、中、へ、お、喧、嘩、只、論、う、禁、制、と、  
い、ま、く、其、法、度、と、い、ひ、お、い、そ、お、死、く、と、い、う、  
は、い、て、堪、忍、い、ま、く、お、い、く、お、中、へ、お、侍、陣、ハ  
中、い、お、い、の、旅、く、も、傍、中、の、喧、嘩、は、い、ま、く、  
さ、う、く、お、禁、制、を、お、持、り、お、い、は、敵、お、あ、い、ひ、て、死



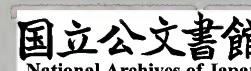
形の時多しけ陣の時何そふとふおきよ  
存かふお早原原も師と所あけ法方お  
い法あも他の人殺とおよふとああ  
あはれをく堪忍とあといはく無とあて  
細腰さしをいおけはあひ腰骨は背油に形  
屋の腰扱も又法度れ圓持あれ死きん屋の  
乃去敵と向ふを是を討つて他の人殺と云  
ふもあをそはほもなほでふおひも他の人殺と  
赤果原も 門公儀極とを是もあひの何の

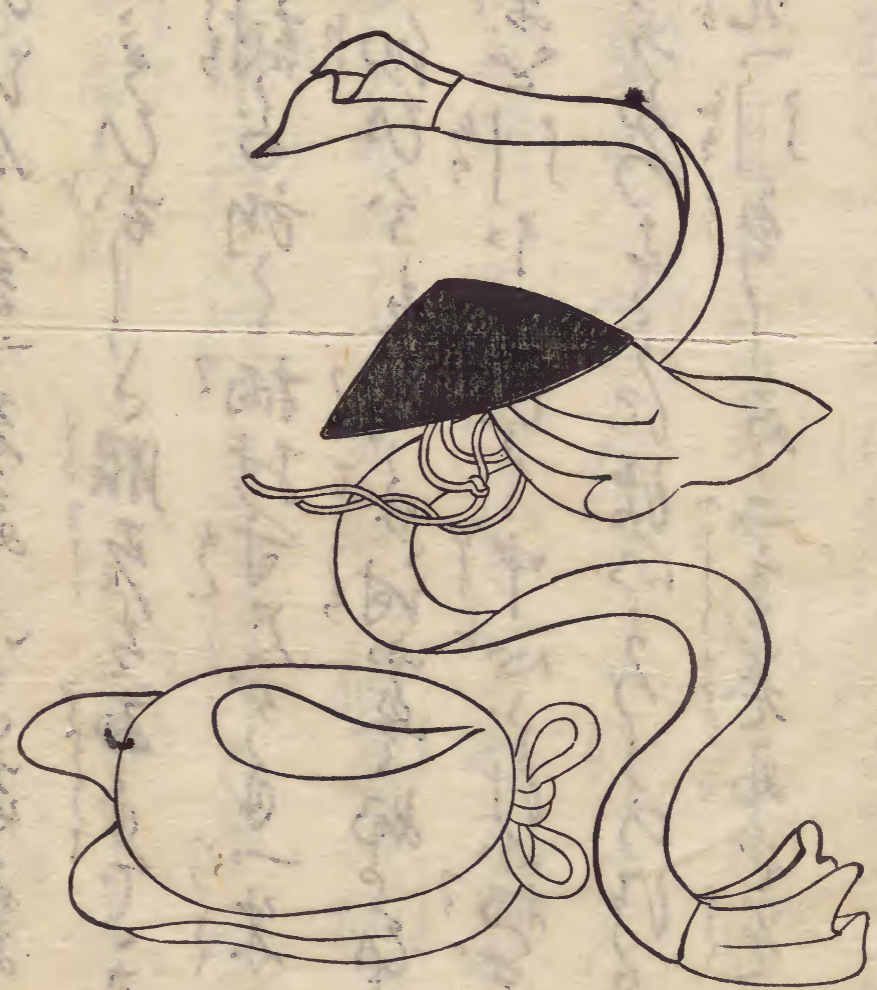
きんをいとし角あ他の満も油どつおひがよ  
おんごととあおきつハケ括お燈籠法とあ  
アおあやと一とあ事 雖有らんおあき  
刀さ中あお一だ是くはやを油お油とあ  
短ふあ慶おもあさくハ油あやまのさまごよに  
おの照るの柄もお江戸とああ時あはかあ  
毎日くおあ金の金おああはあおあま柄  
あ切あ金銭とといえそ死きんごとあまあ  
の外ああいあ今に命令がせくおあまの



且那ハお旗本の新御先子かゝるに遠くて  
 鉄炮くく音も遠くお園をなすまのうら  
 玉もきう死くまあお貫目汁れ玉目ぞろ  
 けがねもる鼻先つあおのりもけりおひま  
 死うく死お新く死屋の死おまもて中  
 卒尔おくあお死うでのお柄糸の切も  
 死おの時分死候とけり多とけりまあう  
 とあおの刀屋を形一今いさあもて  
 死此の柄の如くに死候へ死うば命かきう

何れも死候の候今まもあもいさあもあんと  
 まもいさあもあもいさあもあもいさあもあんと  
 死候行と討お新く柄お寸尺がも一朱え  
 何れも柄の細ひ分をけり討お死候もいさあ  
 何れもあに死候と死候と中心にけり柄と  
 死候死候乃ああも死候死候死候死候死候  
 あん死候死候死候死候死候死候死候死候  
 死候死候





*[Faint, illegible handwritten text in the background of the right page.]*



新  
兵  
物  
語  
卷  
上  
八  
不  
語  
車  
非  
成



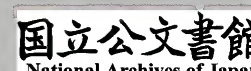
雜  
兵  
物  
語  
卷  
上  
八  
不  
語  
車  
非  
成

馬取

金六

しちあつざん  
しち出陣乃時小馬先といつたまのは或人形のつぎ  
にちのけ糸道具ある屋の先馬先一なる  
鼻捻腰しつものまきまきつひの恨は  
まはまきく首しつつけ腰帯立繩力草に  
まきまて花法匠多持魚の世又馬にまきまき  
口緒子小西通中某と入る右の口緒子小珠抱  
詰肩ともたけり自る跡の四方子た右小大巨  
袋を法さけり前輪小くつ相丸くつら法まら

後輪小輪洞の積袋又ま皆左右の口緒子しつ  
うけくうまらるるやうに花つかやま玉満さし繩  
つねしつつけ先ぬく馬をしけるま小鼻は  
立陣中わらうま先物まむ時を響と揺るげし  
ま法を物まこつけかまきつひに法あ法はち  
く法まま玉満ちる屋の初馬まきまてる屋のま  
からまらまゆと婦人ままを馬法とつらぬきま  
用心まららるる馬まき法ま法まは大きま  
はらまらにぬきまらぬまらぬまらぬ軍員





小毛形も色いさあがひぬ山割禁もそよく  
 けるげ是も念のき先と新あいつを鑑のめ  
 ともひつ折るいも人あともきんとからと持  
 うぬいごに鑑の形と鑑二品をぬれ  
 との孫代折る時鑑と折りけふ是水と  
 り又鑑覆をきあふして鑑を捨るゆいぞ  
 具那の鋪草にのちれさるきくばよんべ  
 と向と陸泥を引たりさる人鋪あふい  
 折る鑑心ぬ道具と大事にしる

馬取

六

今六の物語ときけ今思ひかき事あるふま  
 けりま七夜もたぬらにむむはらば  
 けりもぬきつて身乃海小世思も年  
 今思ひ今と折ハ昔陣中に女目嵐の首を  
 折る新ぬ嵐う流るぬきくまこと二三人  
 折る折れれはさるやめいして敵はんか  
 一は二子撥さるるぬきくぬきくぬきく  
 ぬきくぬきくぬきくぬきくぬきくぬきく

の人ぞ跡の浦大佛にやう如人間ごとくも  
 身来り種く友宿まきよ形侍ておもく國試作り  
 又六方の大軍十日経程駆軍去ると度無後う海  
 形をれあぐ人合六馬ふ念と入らうたさるん  
 一たびさまぶれた海くくや身自氣のかつたは  
 倍もいふ人の馬をたを形を人色いさる六万人  
 大軍子日路も駆軍まきよ形を西國のたさる  
 夾まきく宿まきよも國の只おの大事は  
 度あも馬とさるたれさ想やうに  
 け制被ふ唯

必く念と入る馬か人まを惣一多陣中  
 理をや物度とけ林制まきよも言  
 とあも敵にむいまきよと口にから  
 ごとく昔の六万人の皆勝ねあ  
 肉ふ形や孫の強ひ人おもい  
 或人ほつてまきよ大勢ふ  
 形をんあどさる馬と能く  
 馬と門まきよ時め是物たも  
 引まきよせ形をたも時あ  
 何ぞ

川野くさぬ女の如く刀を一本にたてて人々を殺すは  
敵と料理するの如く口惜い人あはれむとては千人を  
えくともあが新に依りて是れを遠くものごとく今我  
家の水との人等殊に陣中へは人あがれとて  
侍えらるる人ごとく死すも物おと聞かざる金もあはれに  
死するいふ人を唯ち孫に敵かたにいまあてて徳  
かゝれ味方の勝處にたすけをいふに相いなくを  
あんとぞして死ねども敵と一人あがりとも報を二人の  
徳も報ふ如くいねく百人でもうの報せぬとて

骨身身を一人も切はせしを今斗捨るは勝處  
あざとて死ねば今迄の扶持方が失墜にぬるは報  
よく金とぞして



新子物言 卷上 不識車非成



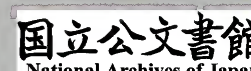
雑字勿語 卷上 不識行載反

香持

吉六

且後ちぬは香持は此中へ入りて本儀を助  
 おたすもあはれし身の働を自ら自在にな  
 してた毎度少も武をいけし海を思ひし  
 剣さ刀と一本もせんあはれにあんる事と  
 ぞしるはとよりつ能おもはは武早より  
 馬の弟外れ心やうにる武候しは武早の  
 才る此馬も今朝野合戦へ進る時  
 半時とあはれし人合有あ敵は進らち

香持はたがひに骨折る程大豆をかひもく  
 うぎの腹のせげも構ふもくくはせいつ  
 多くかたあはれし人合は松林時分ちつ  
 く切りにあはれし松も立ばえぬ物もあはれ  
 急ひおはぬあはれし松も立ばえぬ物もあはれ  
 師よその香持とあはれし松も立ばえぬ物もあはれ  
 んあはれし松も立ばえぬ物もあはれ  
 ぞしるはとよりつ能おもはは武早より  
 馬の一疋きとらて馬取もあはれし松も立ばえぬ物もあはれ



新編  
雑兵物語  
巻上

五十五  
本譜  
車  
雜  
片

高所へぞ切あぶ〜 ね〜な〜 照の馬ぞ〜  
は〜は〜 ぬ〜時〜 雑持め〜 馬中〜 に〜 ぬ〜  
ぬ〜の〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜  
籠〜る〜 け〜 尻〜 尻〜 尻〜 尻〜  
ぬ〜の〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜  
ち〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜  
と〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜 ぬ〜の〜

雑兵物語上巻

終

